

## 第1回ユニバーサルなスポーツ施設検討会主な委員発言

日時：令和6年8月9日（金）10:00-12:00

場所：兵庫県庁2号館5階 庁議室

出席者：10名（対面10名、欠席者0）

- 6 議事＜主な委員発言：進行 増田和茂座長（県障害者スポーツ協会理事長）＞  
(1) 県内スポーツ施設等へのアンケート調査結果(速報版)及び論点整理について

### 【増田座長】

- ・はい、今事務局からアンケート調査結果について説明いただきました。皆さんから、アンケートへのご質問等ご発言いただきたいと思います。この出席者名簿の順番ということで、青山委員からお願いしてよろしいでしょうか。

### 【青山委員】

- ・はい。今回、私の方でアンケート調査を担当させていただきました。すべてのデータ分析が終えているわけではないのですが、特に一般的な、ローデータから抽出して、ざっくりですけれども、分析をかけています。
- ・今後も、本日皆さんからご意見をいただきまして、より詳細な分析を、また改めて分析をさせていただきますので、何かご意見いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

### 【増田座長】

- ・はい、ありがとうございます。柳委員お願いします。

### 【柳委員】

- ・はい。このアンケート結果から興味があるところは、①と②を分けて行ったということが結構良かったのではないかと思います。施設の管理者の現状という問題と、やはり利用者、当事者というところでも少し差が出てくるのではないかと思います。
- ・中身で気になったのは、問11、4ページです。施設が希望しないとか分からないと回答をしているところですが、これを利用者側から聞くとどうなるのかということや、希望しない理由、分からない理由というところは気になります。
- ・これが拠点施設として位置付けするのが嫌なのか、パラスポーツでの使い方を知らないから言えないとか、こういうことは好きではないと思っているからなのか。なぜ希望しないのか、分からないという返事をしているのかということが気になる場所です。
- ・その点はもしかすると、そこを利用する当事者、障害者の返事を聞くと、ここが問題であるとか、どうしたらそれが解決できるのかということが、多分分かるのではないかと思います。
- ・そして、利用者という点が一番気になる場所で、本人に聞いたということは、結構良かったと思うのですが、その人達の障害、視覚障害があるのか、車いすの方なのかや、他の障害を持っているのかということは、このアンケートへの返事や課題に関係があるということになるのではないかと思います。
- ・広さなどに言及しているのは、車いすの方ではないかと思うのですが、情報になると視覚障害者かもしれないということもあるのですが、この結果からは回答者がどんな障害を持っているとか、どういう利用者がこの現状を言っているのかということが少し分からないので、そういうところが分かればいいのではないかと思います。
- ・利用者アンケートに特定の施設名が何件か書いてあるのですが、私はこれらの施設が分からないので、それがどんな施設で、そこでどういうスポーツをして

いるのかが分かれば、今後、改善や解決策といったことも考えていけるのではないかと思います。

- 内容的には、①のアンケートが、結構私の研究と関わりがあるのですが、②の利用者のお話という部分の分析が、細かく分析できれば、もっといい結果になるのではないかと思います。
- 結局、ソフト面とかハード面とか、そういう運営上の話に、施設側はそういう話になってくるのですが、基本的にはバリアフリーになればいいので、対応する方がどうするのかという問題になってくると思うのですが、それが利用する側の人にとってポイントになっているかどうかということが基本になると思うので、この②の利用者の部分と①の施設側の話ということはどうやって調整していくのか、できるのかということが、結構、我々の大事な仕事になるのではないかと思います。はい。以上です。

【増田座長】

- はいありがとうございます。木村委員お願いします。

【木村委員】

- まず、障害者である利用者側と施設側の隔たりが大きすぎると思いました。利用者側の障害者は、まず、駐車場は入口に近いかということと、トイレがすぐ近くにあるのかということを中心と重視すると思えます。
- 施設で利用する器具におかれましても、一般の人ですと器具同士の間隔を例えば 1m50cm という間隔で置いているものを、障害者が利用する場合はもう少し幅を開けて、車いすでも入りやすいようにすることも必要かと思えます。
- また障害の程度によっていろいろな方がおられますので、各障害の程度に対応できるスタッフの方々の教育というのはかなり難しいと思えます。その辺りもどういうふうにすれば、簡潔に対応出来るかということも少し話し合いをした方がいいかと思えます。
- 施設の方は、一生懸命に対応しようとしてくれていることは、この結果を見て思えます。しかし、利用者側の障害者は極端に言えば一人一人にその対応の仕方が変わってくると思うので、ハードルは高いと思えますが、これをスタッフは理解しクリアしないと行けないと思えますし、利用者である障害者にもある程度は施設側の対応や状況について理解していただく、妥協していただく部分もあると思えます。
- 利用者側も施設側も、そういった形で歩み寄りをしていただかないと双方がうまくいかないのではないかと思います。以上です。

【増田座長】

- はい。ありがとうございます。続きまして柴崎委員お願いします。

【柴崎委員】

- はい。失礼します。まず、問5の利用目的が少し私には意外だなと感じました。余暇の充実が一番パーセンテージが多くて、競技性を重視したパラアスリート利用が7.7%ということなので、これを見る限りでは、アスリートの方は限られた施設でその競技をされているのか、一般の体育館をあまり利用されていないのかなと感じました。
- 次に、問11です。これも柳委員と同じなのですが、圏域レベルの拠点に関して「分からない」、「希望しない」という方が、ほぼ8割も、8割以上もあるということは、やはりパラスポーツ、障害のある方の受け入れということが、なかなか一般では難しく感じられているのかなと感じました。これを何とかしないと行けないかなと感じています。
- ②の方なのですが、これは県立のスポーツ施設の利用者アンケートとなっていますので、県立でもこれだけハード面で課題に思われていることがあるとい

うことは、民間ではなかなかもお金の問題等々あると思いますので、そのあたりも少し考えていけないといけないなと感じました。以上です。

【増田座長】

- ・はいありがとうございます。新銀さんお願いします。

【新銀委員】

- ・はい。全体的なことを言いますと、施設側の障害者を受け入れる意識というのでしょうか。実態が本当にこんな、やはり消極的なのだということがわかりましたので、消極的になる理由の中に、障害の知識を持ったスタッフがいなかったということが出てきますが、その後もいろいろな項目がありますが、障害者のことが分からないので、分からないから受け入れるといろいろと不安要因が多くてどうしていいか分からないというような、そういうスタッフの心、気持ちが伝わってくるようなアンケートだなと感じました。
- ・まずハード面のところで、駐車場が設置してあるという、その入口のところでは、何とか障害者の方を受け入れようというお気持ちは感じられるのですが、中に入ってしまうと、もうひっちゃかめっちゃかになってしまうイメージが出てきて、これではまずいなというのが私の正直な思いです。
- ・だから、まず障害の、障害と言ってもその知識とか障害者を受け入れるときに、障害を専門としている職種の人ですら、その障害とは何ぞやとなったときに、答えきれない人なんていないと思うのです。
- ・だからそういう意味では、やはりコミュニケーションをしっかりと取り合って、これから本当に障害者の方が喜んでこういった施設が使えることがみんなにとって素晴らしいことなのだという、その基本の総意というものをまず持っていたかからないといけないかと思います。だから、障害者を受け入れることが、施設そのものの義務になってはいいのかというそういった懸念を感じました。

【増田座長】

- ・はい、ありがとうございます。次に大矢委員お願いします。

【大矢委員】

- ・私は、障害者の施設の利用目的について、競技性を重視した利用の7.7%というところが、他のところよりも気になりました。
- ・パラアスリートが使える施設がまだまだ少ないということは、今、新銀さんがおっしゃったように、その障害に対して、その障害のことを知らない、知識が分からないということがあるかと思います。
- ・一般の施設でパラアスリートが使用できるところが少ないということ、一般では、障害者に対する知識が少ないということの現状から、知識、情報を伝えることで使用しやすい施設が増えたらいいなとは思いますが、そのためにどうすべきかが大事ですね。

【増田座長】

- ・大矢委員は今、西宮市の方で新たなグラウンドとか施設整備の検討会にも入っていると聞いているのですが、その関係で、今回の調査項目などで関係することはありますか。

【大矢委員】

- ・私は、西宮福祉センターを使わせてもらっているのですが、今まではトレーニング施設は車いすのユーザーも普通に使えるようになっていたのですが、何年か前、東京パラリンピックの前、4、5年ぐらい前から器具が変わりまして、車いすのユーザーが使えるトレーニング器具が無くなってしまって、ご高齢の方専用のトレーニング施設だけになってしまいました。
- ・それが悪いわけではないのですが、隣に体育館があつたりとかバスケをしたり

とか、いろいろなスポーツをされている方もいるのですが、スポーツをした後にトレーニングをしたいという方がおられても、車いすで使用できない器具が使えないのでトレーニングが出来ないということで帰ってしまうことが多いです。

- ・やはりちょっと車いすのユーザーの方が少なくなってしまうと、ご高齢の方は集まるようになってしまったのですね。福祉センターのはずなのにと、ご高齢の方が来たからどうかは無いのですが、車いすユーザーの方がだいぶ少なくなっていました。なので、そこを少しやはり変えていかなければいけないなということは、体育指導員の先生方とも話をしたことはあるのですが、一向にやはりそういうことの改善が無いということで、これではいけないと、ずっともやもやした状態でいます。増田座長にもお尋ねいただきましたが、ちょっとそういうことの改善を、今後に向けてやはりしていきたいなと思っています。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。すいません。笠本委員お願いします。

**【笠本委員】**

- ・大前提として、ハード面の整備が必要だと思うのですが、やはり一人一人で障害の内容などは違ってくるので、ソフト面に関しての充実は大事だと思っています。
- ・公立の施設に関しては、恐らく入場するとき、障害者の減免をしてもらうために障害者手帳を見せて、そこで障害者だということは施設側には分かると思います。しかし、ぱっと見て分かる障害の人以外はそれ以上は何も一般の人と同じようにというか、特に支援ということは、基本的には福祉センター以外は無いと思うので、そこはもう少し踏み込んで、例えばスタッフの人と選手の人が相談できるような、何かそういう場が設けられればいいのではないかと思います。
- ・民間施設に入るときは、私も自身の障害について言えずに入ることがあります。例えば視覚障害がありますと言うと、ぶつかって危険なのではないかとか、知的障害があるというふうに言うと門前払いされるのではないかと、障害について言えずに入っている方も恐らくいるのではないかと、とにかく話し合いができれば、その歩み寄りできれば、門前払いにならないような何か施策があればいいのではないかなと、この結果を見て思いました。以上です。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。久保委員お願いします。

**【久保委員】**

- ・はい。アンケート結果をいろいろと見させてもらいましたが、予想通りというか、車いすの人はだいたい一般の体育館を利用しません。利用しにくいのと、床に傷を付けるから危険性があるということで、使えない場合もあります。
- ・我々の場合は1人で車で移動しているのですが、1人で移動できる体育館は神戸には数多くあって、西区の県立リハビリテーションセンターに併設している障害者スポーツ交流館は障害者のスポーツのメッカと言われてますので、駐車場からの移動やアリーナ、トレーニング施設が充実しています。なんせ利用者が多いのでなかなか予約を取るのが大変になっています。
- ・ですから、内容にもありましたが、トレーニング室を広くして欲しいというのはそれも1つかなと思います。利用者が多いということは人気がある体育館で、行きやすいということなのです。
- ・私は昔から王子のスポーツセンターの障害者体育館を利用しているのですが、

- ここは少し古くて使いにくいのです。利用料は、無料で時間もこちらに合わせて予約が取れます。予約はFAXで取ることができます。
- ・障害者スポーツ交流館は、最近ではネットで取れるようになったのですが、これがお年寄りとか、コンピューターの苦手な人にはあまり人気がないらしいです。今まで通り、手で書いて予約を取るような方式も残してくれたらいいなという話もあります。全てネットになってしまうのは、ちょっと不便ですね。視覚障害者にも不便だと思うのですが、どうでしょうか。これも障害者スポーツ交流館に限ったことです。
  - ・あと、我々は車の後ろにレーサーとか、車いすバスケット車を積んで体育館に行くのですが、障害者用の駐車スペースであったとしても、後ろのドアを開けて荷物を降ろさないといけない場合があります。そういう場合だと、スペースが狭いと少し困るので、後ろを開けて荷物を取れるようなスペースを空けてもらいたいですね。
  - ・これはアスリートに限ってですが、体育館に駐車場を作る場合には、後ろのトランクを開けて使うスペースを空けてもらうのと、右側のスペースを空けてもらう、ということです。
  - ・障害者一般ですが、車いす専用駐車場は当然1.5倍ぐらいの広さが必要なのですが、最近多いのはゆずりあい駐車場が結構多くなっています。あれが多くなると、ほとんど障害者は利用可能です。一般の人も停まっていますので車いすの人が使えないことが多いので困っています。
  - ・車いすの我々が行くと、結構台数があるのですが、全部埋まっている場合があります。それは体育館に関わらず民間の施設もそうで、コンビニとか病院とかです。思うのですが、車いす乗用者以外の障害者の人は、普通の駐車スペースでいいと思うのです。あまり広いスペースはいらないですね、多分。普通のスペースをゆずりあい駐車場として何個か設けていただくと、我々は広いところを利用できる可能性もあるのではないかと思います。ゆずりあい駐車場をそんなに広いところばかりたくさん作る必要が無いような気がします。
  - ・ただ、車いす利用者の多い障害者スポーツ交流館の駐車場は非常に便利です。台数がたくさんありますので、ある程度障害者の方が停めても余るぐらいのスペースがあります。大会以外はですが。大会になると、他に停める場所がつかわれていますので、そこに停めなければなりません。
  - ・ですから、基本的に西区の県立リハビリテーションセンターに併設している障害者スポーツ交流館をある程度ベースで考えていただくと一番使いやすいかと思います。視覚障害者の方に聞いたのですが、音声でも案内がありますね。よく取りざたされているのですが、あれはありすぎると困ると、入口、入口としゃべりだすと困るので、ある程度ポイントだけ押さえてもらえば良いという話もありました。これは車いすの人にはちょっと分からないですね。
  - ・あと点字ブロックですが、車いす乗用者は実は点字ブロックが苦手です。というのはガタガタとしますので、私は背骨が折れていますのでそこら辺に響きます。現実として足が痛くなったりするので、不人気なのですが、点字ブロックも法律で決まっていますので、別にお互い様ということで、視覚障害者の協会の人とも話をしたのですが、これは、どちらかが我慢するしかない。ゆくゆくはなだらかな点字ブロックを考えてもらっていろいろな施設でそれを設けてもらうとありがたいなと思います。
  - ・ヨーロッパの方では、そういうのもできつつあるとお聞きしたのですが、技術大国が2流になりそうな日本は、こういうところに力を入れてくれるのかなと思います。特に障害者は大いに期待します。
  - ・スタッフの問題ですが、体育館に行くとやはり大事なものはハード面ですが、ソ

フト面では、スタッフ。スタッフが大事です。昔の障害者スポーツ交流館の指導員は障害者スポーツをよく理解していました。そういった指導員がいる施設は、車いすスポーツのメッカでもあり障害者相談のコミュニティでもありました。

- ・体のことも、脊髄損傷とか切断とかいろいろあるのですが、障害者をいろいろ指導する上で知識も豊富だったので、しかもその指導者はすべてパラスポーツができました。車いすバスケット、アーチェリー、陸上、すべて実際にできる人が在籍されていました。
- ・最近は何でパラスポーツを指導員が自らしめないのかと思っていたのです。あまり職員がスポーツをしない、車いすに乗らないのですね。ただ接して話をするだけで、別にその職員に文句はないのですが、多分、これは兵庫県の上の方で、そういうふうなお達しが出ているのではないかと、指導員が我々と一緒にバスケットをすると遊んでいると思われているのではないかと感じてしまいます。でもスポーツなのですね、仕事の一部ですね。選手のことを理解するのはやはり車いすに乗って一緒にやるということです。
- ・そうすると、その選手の日常生活も分かります。脊髄損傷の場合は、膀胱とか、褥瘡で直前になって、一時期スポーツを離れなければならないときがあります。そういった知識も昔の職員は知っていました。今の職員はどうか分かりませんが、あまり話したことがないからですが、スタッフももう少し選手とも距離を縮めていただくとありがたいと思います。ということで、まだまだ話がありますがこれぐらいにしておきます。

#### 【増田座長】

- ・はいありがとうございます。奥山委員お願いします。

#### 【奥山委員】

- ・はい。私もアンケートを見てですね、皆さんのお話を伺いながら私は主に施設管理をしているのでそういった視点でお話ができたらと思います。今2点ですね、ハード面とソフト面の話が出てきました。
- ・実際、私が今いる場所というのはしあわせの村の温泉健康センターを中心に働いています。しあわせの村というのは、ちょうど平成元年に設立されて様々な方に、障害をお持ちの方も高齢者も、お子様もノーマライゼーションということを軸に設立されたと聞いております。
- ・ただ、私は今の段階で感じる部分というのは、たまたまこの施設は総合福祉的な視点で設立されたというところもあって、割とその他の施設よりは進んでいるところもあるなと思うのですが、ただ、私が30年前のそういうバリアフリーという視点で作られたのはこれでよかったのかもしれないが、本当にこれで今は大丈夫なのだろうかというのはすごくあります。
- ・スポーツは少し関係ないかもしれませんが、私は温泉も見ているのですが、温泉には障害者の車いすの方が利用できるような場所、スペースというのがあるのですが、それは、あまり今では想定できないのですが、車いすからそのまま降りて、自分の力でそのまま這っていくようなイメージで、這ってシャワーとかお湯が出る場所に行って、そこで体を洗って、そのまま自分の力でスロープを降りていくというような作りになっております。
- ・30年前の議論はどんなものだったのかということは、やはり思うところがあります。そういうところもあれば、先ほどフラットというお話がありましたが、こちらは2階建てにはなっていないなくて、使いやすいフルフラットの場所が多いです。
- ・先ほど大矢さんも陸上競技場をよく利用しておられるというお話をいただいたのですが、陸上競技場も少し疑問があって、ゆずりあい駐車場から競技場ま

- で行くには、車を停めてから競技場に行くまでに、1度下がることになります。
- ・一度坂道を下がって、次の坂道を上がって行くということで、陸上競技場に着きます。相当な腕力が必要になるような何故か作りになっています。30年前だからそういうものなのかという思いも、今の人間としてはありますが、それは今言っても仕方ないことではあるのですが、そういったいまだに残るハード面というところは、今の時代に施設管理をしている我々は、指定管理者ですが、行政の方と連携してやっていく部分の中で、やはり大きな部分というのは、そういう意見を言いやすい環境があるということが1つと、そのような場合に予算がついていかないとなかなか難しいということです。ハード面はそんなに安いものではないので、やはり改善が必要な箇所ということではありますので、そこがやはり一番のハード面での問題ということはあると感じます。
  - ・あと運営面についても、これもたまたましあわせの村というところは、障害者の方々の健康維持であったりとかスポーツの振興、また就労の場の提供という部分を目的とする部分があって、それを踏まえるとやはり障害者スポーツ教室を行ったりとか、それは水泳であったりとか、卓球だったりとかバドミントンだったりとか、自分たちができるものを運営していったりとか、そういうことをやっているの、障害者の方々と触れ合う機会というのがすごく我々には多いです。
  - ・その中で、いろいろな障害の特性とか、知識がナレッジとしてはついていくのですが、これについても同じ問題かと思うのですが、まず専門性の部分ですね。障害をお持ちの方。身体障害者の方、視覚障害者の方もそうですし、知的障害者の方々に対して、施設を利用するために、例えば入浴することであったりとか、少しお手伝いをするということが可能だったとしても、それより先となってくるとどうしたらいいのかなということは我々も思うところがあります。
  - ・あと、勉強する機会ですね。パラスポーツ指導員というものも何名か在籍しているのですが、やはり施設運営がメインになってきます。その中でそういう資格を取得していくとなったときに、そういった資格は民間で活用されているものではないので、そういった部分の中で、連携して資格を取得してとか、資格取得だけではなくて、そういう有識者の方のご意見とか、ご見解に触れるような機会ということがあれば、これから施設運営していく上でも、私としてもありがたいなと感じて聞いておりました。はい。以上です。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。スポーツ施設というものを、これまでにはスポーツ施設からコミュニティーの枠組みの中では、人が集うという機能を持っていたりとか、しあわせの村という中では温泉という中では、どういう形が利用しやすいのか、それぞれいろいろな形があるかと思えます。
- ・やはり理解するには、スポーツの現場だけではなくて、どこで県民に、国民に知らしめるのか、もうすぐパラリンピックもあります、どれだけ意識が変わるのか、そんなところも大事なところかと思えます。

(2) 現地視察先の決定について

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。今、事務局から視察の件でご説明いただいたのですが、皆様から各施設に関しまして、希望やご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。青山委員からお願いいたします。

**【青山委員】**

- ・はい。少し先ほどの皆様からいただいたコメントも踏まえて、いくつかご回答させていただければと思っております。

- ・今回のアンケート結果には出ていないのですが、今後受け入れ希望のある競技はありますかとお聞きしました。1番がボッチャで28件、それから水泳が8件、3番目が車いすバスケットで実は8件もあったということです。
- ・先ほど久保委員からもお話がありましたが、車いすの競技者というのは、自分で車で移動される方が多いということで、アクセスが良くても実際に駐車場が無いと、拠点であったり練習場としてあまり意味をなさないかもしれないなど思っています。
- ・そもそも駐車場の枠が無いところなどで、車いすが使える競技の体育館を整備しても、もしかして意味が無いかもしれないということを踏まえながら、見ていく必要があるかなと思っています。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。柳委員お願いします。

**【柳委員】**

- ・先ほどの久保さんのお話の中からはいろいろと思ったことがあります。というのも、ハード面では結構、法律上、バリアフリー法上の大きさですということが普通かと思うのですが、それだけであれば、今回の話の中のいろいろな問題ということは解決できないですね。
- ・モデルということ、本当にバリアフリー法という基準を上回って進めるのか、実際にパラスポーツの競技の選手が使っている車いすの大きさとか、先ほどの後ろから出すとか、そういうことになると、今の5mの車いすの長さということは、もっと長くなると思います。横は1mあるのですが、この長さの基準というものはないので、そんなことに対して、もっと兵庫県がモデル事業をやろうとした場合に、そういうことも含めてモデルを作っていくと良いのではないかと思いました。
- ・そういうことの中に駐車場もあったのですが、扉の幅ということも法律であれば、80cmぐらいになって、隙間は10cmぐらいなのですね、80cmならスポーツ用車いすは通れない、それが本当に競技場だけではなく待機する控室とかになると、もっと小さく、70cmという場合も結構出てきます。このところを国の基準ということではなく、別の基準の施設の場合には、いくつ以上の基準ということをして、そういうモデルを作っていくといいのではないかと思います。
- ・視覚障害者用の点字ブロックは、結構問題が出てくる部分もあるのですが、そういうところに対して何か改めてやるということも、ちょっと実際にこれは入れてみてもいいのではないかと思いました。そこをメインとして利用することは視覚障害者には本当に大事なことになるのですが、そうではなくて車いすの方が、利用するということになると、それを違う形の誘導ブロックにするとか床を少し材料や色を変えてするとか、そういうことでやってみるということも可能ではないかということも少し思いました、そういうことにも、挑戦してやってみてもいいのではないかと思いました。はい。以上です。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。続きまして木村委員お願いします。

**【木村委員】**

- ・はい。今説明をお聞きしまして、これは積極的にやはり進めてもらいたいということもあります。それと私も久保委員が言われた点字ブロックの件なのですが、我々も市町のいろいろなところに行って障害者の方ともいろいろな話をすると、やはりガタガタとなって少し嫌だなということや、足の悪い人などは雨が降っているときは、点字ブロックが滑りやすいということもあり、何とかならないかなといろいろと言われました。

- ・どこの国が分かりませんが、ブツブツのない点字ブロックや、あるいは、未来的には点字ブロック自体がもう無くなっていくのかもしれないなど少し興味があるのですが、そういった良いところ悪いところも全部含めて、資料として入れていただいて、これから10年後20年後の施設がどうあるべきかということのヒントになれば良いなと思いました。以上です。

**【増田座長】**

- ・はい。ありがとうございます。柴崎委員お願いします。

**【柴崎委員】**

- ・はい。私はもう20数年知的障害の方を中心に支援をしておりますので、知的障害の方の目線から施設等々を拝見させていただければなと思っています。
- ・個人的なのですが、磯上体育館は新しいタイプですね。この前に磯上公園というグラウンドがあったと思うのですが、そこで私はずっとサッカーをしておりましたので、そこがどう変わったのかということは少し見てみたいなと思っています。はい。以上です。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。新銀委員お願いします。

**【新銀委員】**

- ・はい。精神障害の立場で施設を見ていくということは、なかなかハード面はあまり感じる事が少ないかもしれないですが、でも実際に見ていろいろと感ずることあると思いますし、それと私もその磯上体育館というところにとっても興味もありますので、単にそこに行きたいとかではなくて、30年前と今とでどんなふうに変わっているのかということを含めてです。
- ・それと、やはり海外でいろいろな先進的な取り組みをしているというところも含めてそれが日本の中でも可能なのかなのかなというような視点も入れて、視察をしていければいいなと思っています。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。大矢委員お願いします。

**【大矢委員】**

- ・私は陸上選手なので陸上のことばかりになるのですが、しあわせの村の陸上競技場のトラックの駐車場からの坂道は、正直言いますと、レース用の車いすを1人で押すことは難しく、誰かに手伝ってもらわないと難しいということと、普通の車いすを利用するときにも、やはり傾斜が強いことで、摩擦で褥瘡であったりとか影響を受けてくることがあるので、もう少し傾斜を、もう少し角度が無くなればいいなと思います。
- ・あと、昨日、私は明石公園の競技場に練習に行ったのですが、駐車場から距離が結構あります。ここには野球場があって、そこでも結構段差があるので、結構お尻に響きます。
- ・それを何とかして欲しいということがあります。2、30mぐらい距離があつて、そこから競技場へ入るのですが、そこにも、少し駐車場のスペースはあるのですが、そういうところにも私たち車椅子利用者でも停めてはいけなくて、停めては駄目ということになっています。少しそのあたりも気になっていますので、改善という点ではお願いしたいところです。
- ・私は陸上の練習のホームを尼崎のベイコム陸上競技場でさせていただいているのですが、今は夏休みということでたくさんの方が入っており、練習ができなくてどうしても西の方に行って練習をさせてもらっています。
- ・明石の競技場や姫路の陸上競技場に行ったりとか、あとは、太子町の方まで行って練習をさせもらったのですが、太子町の陸上競技場も結構ガタガタしていてまっすぐ走れなくて、そういうところの工事というものも必要だなと感じ

じました。

- ・少し私の意見が競技者の目線になってしまっていますが、陸上競技場のレーンがガタガタする部分はそういうところの改修も必要なのではないかと走ってみて思いました。
- ・だから、そういう面でもそうですし、あとは先ほどの障害者の一般減免のこともそうなのですが、競技場によっては、駐車場ですが、障害者手帳を見せれば半額になるということもなくて、そのまま一般料金で利用することになったりします。無料であったり、手帳とその駐車券を見せれば半額になるという施設もありますので、そういう施設がもう少し増えたらいいなということは少し私も感じました。

【増田座長】

- ・はい、ありがとうございます。続きまして笠本委員お願いします。

【笠本委員】

- ・はい。この3つの候補の中で、磯上体育館はとても新しい施設で、個人的によくあの辺りを歩いているので、実際に中を見てみたい、勉強したいなという思いがあります。
- ・その流れで一緒に神戸市民福祉スポーツセンターも視察を考えられてるということなのですが、普段からその施設をよく利用しています。利用し始めてもう20年ぐらいなのですが、非常に障害者の対応経験があるスタッフの方々がたくさんおられて、恐らくこのたくさんの施設の中では、かなりソフト面が充実していると思いますのでとても勉強にはなるかと思えます。
- ・もちろん、まだまだ足りない部分は、利用者として、たくさんあるかと感じていますので、そのような課題を見つけられればと思います。
- ・あと、民間施設のコナミスポーツクラブ三田は、ぜひ民間の施設の方のお考えであったり、意見というものを、すごく私は興味があって聞きたいと思っています。今後のパラスポーツ界にいろいろ繋がっていきそうなので、私はぜひコナミに行ってみたいです。以上です。

【増田座長】

- ・はい、ありがとうございます。久保委員お願いします。

【久保委員】

- ・体育館は、主に王子スポーツセンターの障害者体育館と西区の県立障害者スポーツ交流館に行っています。問題は無いのですが、多くを期待するのは、先ほども言いましたが、職員、スタッフの人の理解を求めるのはなかなか難しいのですが、障害者体育館、交流館と名のついてる限りは、障害者の人の知識を持っていた方がやりやすいと思いますし、スポーツをやる場所ですから、スポーツに関してある程度知識を持っていた方がいいと思います。
- ・大昔ですが、イギリスの方に行きまして、イギリスとかフランスに行ったのですが、大昔ですら、向こうはスロープが無かったり、階段が無いところが多かったです。今はどうか知りませんが、オリンピックがありますからね。そういう観光地をぶらぶらしていて、階段があるとすぐに寄ってきてくれます。
- ・困っているなんて表情を見せると、すぐに寄ってきてくれるのですね。それは日本では考えられないです。日本に帰ってきて、三宮のロータリー、タクシーのロータリーで友達がひっくり返ったのですが、そうすると周りで見てるだけで、どういうふうに触ったらいいとか、どう介助したらいいとか知識がないから分からないのですね。
- ・多分ヨーロッパはですね。多分ですが、キリストの国なので、教会に皆行きますよね、その時にいろいろ障害者を見るのでしょうかね。車椅子に乗った人もいますし、目の見えない人もいますし、ある程度は、そういう教会に行

ってつき合いがあるかどうかはわかりませんが、当然いじめもあるかも分かりませんが、そういう立場ですね、かわいそうということではなくて同じ対等に見ようじゃないかという意識が多分。多分ですが、感覚としてはヨーロッパ、アメリカにあると思うのです。

- ・アメリカでもやはり、不便なところは多いです。観光地に特に多いですが、障害者は有無を言わず優先するんですね。日本のディズニーランドとかUSJは、車いすでも一般の人と同じ時間待ちます。アメリカはすぐ真っ先に乗せませす。拒否できません。向こうでは、ユニバーサルスタジオも、ディズニーランドも車いすでは乗れない乗り物もたくさんありますが、アメリカではすべて乗れます。
- ・それは、日本では障害者の差別解消法ですね。アメリカでは障害者差別禁止法になっているので、法律で罰せられます。それを導入するのはまだまだ日本ではハードルが高いので無理ですが、心としては何とかもう少し障害者を別に助けてあげなくてもいいですが、声をかけるぐらいのことはできるのではないかと思います。
- ・なぜなら、私はそういう仕事をしています。兵庫県身体障害者福祉協会で、障害者の声かけ運動ということをやっています。まず障害者が困っていたら、そういう声をかけて何か手伝うことはありませんかみたいなことです。これは簡単なもので、例えばスーパー、コンビニで上の方にあって取れないと思うような人がいれば、声をかけて取ってあげるとかですね。私は西神南に住んでいるのですが、結構障害者が多くて、車いすも多いのです。
- ・店員さんがすぐに取ってくれますよね。結構、私は言う方なので。取ってくださいと言いますしね。そういう障害者のアプローチも大事ですね。もう少しね、何か人と人とで、これはハードでないです。でも、お金には限度がありますので、ソフト面での方はもう少し寄り添ってやっていければと思います。少し大ざっぱですが、それを期待します。以上です。

**【増田座長】**

- ・はい。ありがとうございます。続きまして奥山委員お願いします。

**【奥山委員】**

- ・はい。私は、項目がやはり多く対応できているところが中心になろうかと思うのですが、本当に先進的に、先ほどの体育館の話もありましたが、進めると思われる施設に行きたいなということがあります。
- ・結構年数が経っているけれども、項目を達成している体育館ではなくて、もう少し新しく、達成しているようなところに行くべきではないのかなということが1つです。
- ・先ほど笠本委員もおっしゃられたのですが、民間施設ですね。公共施設も指定管理者制度であったり、PFI制度という部分の中で民間活力を生かしていくというような時代に入っていますので、そういう視点では私も民間施設を見ていきたいなと感じています。

**【増田座長】**

- ・はいありがとうございます。皆さんからお聞きしますと、事務局から提案いただいた、競技、一般それから市町といった中では、磯上の体育館が一番、皆さんの中では興味、関心を持たれていますね。圏域一般という中では、大矢さんが推していただいたグラウンドという部分が、一宮には陸上競技場が含まれていない普通のグラウンドだと思います。今回はその施設環境が入っていないということが1つあります。
- ・それから、市町では笠本さん、奥山さんが言ったように民間の施設が今後どうなっていくかですね。今回のアンケート調査の対象の中に民間スポーツクラ

ブや応援協定を結んでいる団体の施設がありますが、民間施設のあり方について、過去の話の中では、民間施設の中で、障害の方が来られると困るというような運営側の事情があるといったこともありましたので、そのあたりも触れることができるかと思います。

- ・そして、柳委員から言われたように、やはり見る以上は設問項目はあるのですが、やはりソフト面でどこまで、それを知ることができるのかなという中では今後大きな課題があると思うのですが、まずは、磯上の体育館が候補の1つなのですが、このあたりをどういう判断するかですね。

【大矢委員】

- ・民間は西宮を入れてもらえるとありがたいです。

【増田座長】

- ・西宮は総合福祉センターということですか。

【大矢委員】

- ・いや、コナミの西宮北口です。

【事務局】

- ・プールですよ。では西宮のコナミでいかがでしょうか。

【笠本委員】

- ・私はコナミの会員なのですが、三田の方はパラ水泳の山田拓朗選手がずっと三田に行っていました。そういうこともありますので、今は西宮北口にたまに、週に2回ぐらい行っているのですが、とても大きな施設ではありますが、どちらが良いかとなると、関心があると言っている三田の方が良いのではないかと思います。どうでしょうか。

【大矢委員】

- ・そうですね、私は西宮に住んでいるということで、西宮北口と言っただけなので、気にしないでください。

【笠本委員】

- ・コナミさんもグループ内で繋がっていると思いますし。

【増田座長】

- ・宍粟のスポニックパーク一宮なのですが、ここは毎年、パラスポフェスタという形で地域住民を巻き込んで、それから大学も関わって、年1回なのですが、体育館の中では、ボッチャだったり、去年はブラインドラグビーをやったりしていました。そういう面では、スポニックパーク一宮は非常にいろいろな可能性を秘めているということは、施設を見るだけではなく、いろいろな地域を巻き込んだ展開をしているというところも見れますね。そういう施設だということ少し参考までに情報としてお伝えします。
- ・一応2つは、行く方向でよろしいでしょうか。あともう1つは、事務局の方で検討するということでさせていただきます。

以 上